



鉄筋工事の現状と将来 (古い体質との決別に向けて)

(6月のごあいさつ)
平成30年6月1日(金)

昨秋、例年のようにITコーディネータの全国大会であるITカンファレンスに参加した。マイクロソフトの役員の方による「AIが変える社会」では、挨拶や講義が、即時に7カ国でスクリーンに表示されAIの進歩を実感した。また、タイミングよく同時期に幕張メッセで開催された公益社団法人全国鉄筋工事業協会の世界で初めてという鉄筋EXPOの見学もできた。

鉄筋プレハブ工法の公開施工デモは、「幕張メッセの屋外展示場」で行われ、先進的なネジテツコン継手を使用した、鉄筋材料による工事の省力化、品質向上に関する実演であった。従来工法と比較しながらの具体的な工事の施工の実演や様々な展示は、**建設業の現在の課題と将来の発展の方向**が体験できたような気がした。鉄筋メーカー、設計者、総合建設業、鉄筋工事業、継手工事業、検査業の各パネラーによる、**生産性の向上と施工品質の保証**というテーマで、これからの10年を見据えた複合的な**シンポジウム**も行われ、業界の現状の課題と将来の展望についての議論が行われた

鉄筋工事の現場は、鉄筋材料の調達、加工組み立て、鉄筋継手の施工等、1連の工事の工程を各関連業者がそれぞれ品質保証することによって、適正な工事をするという基本的な仕組みとなっている。今後要求される工法、生産方式は、部材の高強度化や工事の省力化、短縮化に応じて、従来の現場生産からプレキャスト工法、鉄筋先組み工法、ジャバラユニット工法等の工場生産あるいはそれを越えた生産方式を開発することによって**建設現場の課題の解決と工事の効率化**を図る方向の模索である。それは、建設工事における一貫化とロボット技術の導入、ICT、IoTの活用等による**生産方式への取り組み**などによる生産性向上、そして**BIMで構築された建設工事に関連した立体的で透明性のある情報の活用の促進**によって大きな変革が期待される。

従来の建設工法と建設業の経営は、今後10年間を視野に入れた大きな変革に対応しなければならないことは必至である。それは**現場の慢性的な人手不足と高齢化**などの課題への対処という目前の問題の解決に加えて、**我国の人口およびGDPの減少**という厳しい現実を前にして、その解決と対処も必要である。特に建設及び関連事業の古い体質を変え、**透明性のある経営**が出来なければ事業の存続にかかわる事態となることも考えられる。